

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

障害児教育って楽しい！ みんなで学んだ新歓発達講座！

5月24日、「新歓学習会・発達講座」がおこなわれ、府立支援学校の教職員56人が参加しました。「障害児教育って楽しい！〜わからない！〜わかりたい！〜子どもの気持ち〜」というテーマで、鳥取大学教授（鳥取大学附属特別支援学校校長併任）の三木裕和さんが講演しました。

わかりたい！〜子どもの気持ち！

はじめに三木さんは、附属特別支援学校で出会った生徒たちの話をしました。実習先で売り物のクッキーを食べてしまった高等部生徒のエピソードでは、学校としての対応もあるが、「食べてはいけないけれど、食べたくなる子どもの気持ちもわかるよね」と、その時の子どもの内面の気持ちについてうれしそうに述べました。次に、ある特別支援学校で決まりごとを破った怖さから同級生の恋人と駆け落ちしようとした高等部生徒のエピソードに触れました。周囲の先生たちが、誰ひとり生徒の気持ちに聞くことなく、「〇〇したらだめです」「△△は禁止」と対応する中、「うれしかったでしょうね、2人で歩き始めたとき」と子どもの気持ちに共感する若い先生がいてくれたという事例を紹介し、「子どもたちに對して一方的に叱ってはいないか」「世の中のルールや学校の決まりは、そもそも何に基づく決まりなのか？」「子どもの気持ちを無視していいか」などの問題提起をし、障害者権利条約も絡めて、教育現場で大切にすべき視点を指摘しました。



子どもの姿を生き生きと語られる
三木さん

子どもは失敗する権利がある

また、三木さんは、映画「男はつらいよ」を話題にしました。映画の中で、「無駄な時間を過ごしてきた」と嘆くヒロインに、寅次郎が「大丈夫だよ、まだ若いんだし、これからいいこと、いっぱい待ってるよ、な」とやさしく言葉をかける場面を紹介しました。そして、成果や結果を求められることが強まる学校現場において、「寅次郎の言葉は、今の学校教育で伝えるべき一番のメッセージ」であり、「子どもは失敗をする権利がある」と力強く語りました。

最後に三木さんは、32年間の教員生活を振り返り、教職員組合に入って、多くのことを学んだことを語り、「今の若者は苦労している」学校現場では、どこにでもいる、当たり前のように「私だけ、こんな気持ちなんだろうか」と元気をなくしている「ひとりじゃないよ、いっしょにがんばろう」と仲間とつながることの大切さ呼びかけ2時間の講演を終えました。

子どもたちが不安と期待で新年度の2か月を過ごす中、先生方も忙しく目まぐるしい日々をこなしてこられたのではないのでしょうか。今回の講座を通して、みなさんが感じられたことや得られたことが、子どもたちと職場に還元されていくことを願っています。8月におこなう「みんな考える教育のつどい」では、第2弾として再び三木先生をお招きして、私たちの教育について一緒に語り合いたしましょう。

【青年部 樋口真弓】



熱心に聞き入る参加者

〈参加者の感想〉

- 障害のある人の自由な恋愛についてとても考えさせられました。「〜してはならない」「〜禁止」と決めれば決めるほど、子どもたちを追い詰めていくんだと感じました。障がいの有無に関わらず、人のことを好きになる、愛するという経験をしてもらえたらと思いました。
- 常に子どもの視点、生徒の視点に立って話されていることに心があたたかくなった。やっぱりそれでいいのだと思えた。
- 「(子どもは)失敗をする権利がある」や、寅さんの言葉が、とてもいい言葉だなと思いました。



先日のこと。23:30頃今日は遅くなつたなと思いつくと、子ども部屋に灯りがついている。疲れて電気を消し忘れたのかと思ひ、部屋をそっと覗くと、そこには春から中学校に進学した娘が勉強机に向かう姿が。「3日後の定期テストで点数とれへんかったら、やばいねん」「みんなもつと勉強してんねん」と話す娘の顔は、疲れと眠気と不安でいっぱいの表情をしていた。「22時までには寝るんだよ」と言っていた2ヶ月前が嘘のようだ。

入学して初めての参観で、教科担当の先生が「テスト」と「評定」の説明をし、「いい点をとるようがんばって」と子どもたちに話されていた。入学早々、本人の思いとは関係なく背中を押し出され、高校入試に向けた「競争教育」が既にスタートしていた。(チャレンジテストについては、またの機会に触れたい)

とある学習会の場で、「子どもの残業時間」という話を聞いたことをふと思い出した。毎日6時間授業、放課後はクラブ活動。帰宅は18時前。食事・お風呂以外の時間は、宿題、予習・しなければならぬことに追われ、寝るまでホッとする時間もない。今後本格実施される新学習指導要領では授業時数や学習内容が増大する。教師の多忙化が問題視される中、学校で学ぶ児童生徒の多忙化やしんどさも決して見落としてはいけない。娘の姿から、今の子どもたちの生活背景をまるごととらえることの大切さを改めて感じた。

明日の朝、クラスの子が登校してきたら「おはよう」と声をかけ、いつもより丁寧に子どもたちの顔を見てみよう。その子の後ろに見える生活・背景も視野に入れて。

第3回北河内分会合同新歓教研 「そっだ！先輩に聞こう！」

3人の青年の発表に大きな拍手が！

今年も、北河内の支援学校の分会合同で新歓教研を行いました。「そっだ！先輩に聞こう！」と題し、3回目の取り組みになります。交野支援学校、四條畷校、寝屋川支援学校、枚方支援学校、守口支援学校の5分会、延べ24人が参加しました。初任から数年目の「ちょっと先輩」の3人の方に1年目を振り返ってお話していただきました。

今年も光った「ちょっと先輩の話」

一つ目の発表は、1年目に二人の先輩に影響を受け、その先輩を目標にしたという内容でした。障害のある子どもたちが理解したり、楽しんだりできる教材の工夫を先輩から学び、熱意をもって汗だくで取り組んでいる別の先輩の姿にも感動したそうです。また、言わなくていいと思っ情報共有しなかった失敗談も語りました。

二つ目の発表では、支援学校での教育実習で、音楽によって子どもたちが一つにつながる素晴らしさを感じ、障害児教育に関わりたこと、と思ったことや、講師時代の辛い思い、今関わっている子どもたちの難しい実態や、一部の人で決められ

ていく学校の体制への疑問が語られました。3年目になり、仕事が増えてきて「助けてください」と言わないとやっていけないとの発言もありました。

三つ目は、転動しての1年目を振り返り、聴覚支援学校と今の学校との違い、チームティーチングでいるんな先生がいろんな視点で



3人のちょっと先輩

みる大切さと安心感についての内容でした。ベテランの先生が矢面に立って対応してくれること、日常の子どものおもしろエピソードを話せる環境をありがたく感じ、これからも子どもたちにも関わっていくか勉強していかうと決意を語りました。また、組合に入ったことで、つながっている先生がいることを心強く感じ、転動した先に知っている先生がいることで安心する、と語りました。

意見交流の中では、組合には同じ悩みをもつ人がいて、一緒に働いてほしいと思ってくれている仲間がいることがわかり、励まされ、という青年の発言もありました。

「権利学習会」 大障教のお話も



アイスブレイクで体を動かして

後半は、年休の取り方や賃金、母性保護の制度など、働く上で知っておくべき権利を学び、組合の取り組みを紹介しました。妊娠しても流産が続いた寝屋川支援学校の実態から、妊娠中の体育実技・児童生徒介助等職務軽減措置の改善を勝ち取っていったことも説明がありました。また、枚方支援学校ができたこと、交野支援学校が知肢併置から肢体不自由校に戻ったこと、四條畷校が今も存続している

を考えたやり方でしていただきたい」「教員の権利のためにがんばっていただきたい」「子どもたちに良い環境を作るためにも教員から良い環境にしていかないと本当に良い教育ができないと感じた」「大阪の待遇について考えるきっかけになった」などの声が寄せられました。多忙な中、参加者をたくさん集めるのは難しいですが、参加した方には先輩からのメッセージや、大障教が掲げている「子どもの願いから出発する教育」の大切さが伝わり、今年も北河内で新歓教研をやったよかったですと思いました。

飲み物やお菓子も用意され、終始なごやかな雰囲気でした

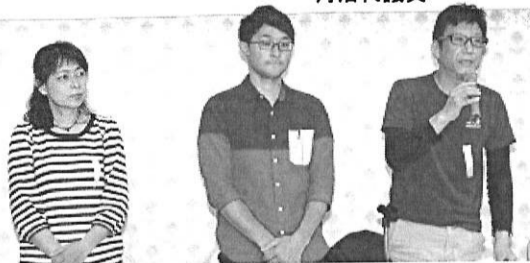


大障教定期大会

大会役員のみなさんお疲れ様でした！



議事運営委員長
生野聴覚支援分会
丹代代議員



吹田支援分会 田川代議員
寝屋川支援分会 佐野代議員
平野支援分会 杉本代議員



佐野支援分会 細濱代議員
岸和田支援分会 関根代議員

書記